

大径木（大径材）を無駄なく活かすために その2

大径材を有効活用する次なるステップとして、フリッヂのものとの増産に取り組みました。

用途が乏しいため需要があまり見られなかった2m程度の短尺の大径材を受け入れ、丸太を4面から粗挽き加工しフリッヂを製造するラインを整備し、製造したフリッヂをグループ工場で再割する流れです。

大径木対応の短材ライン導入

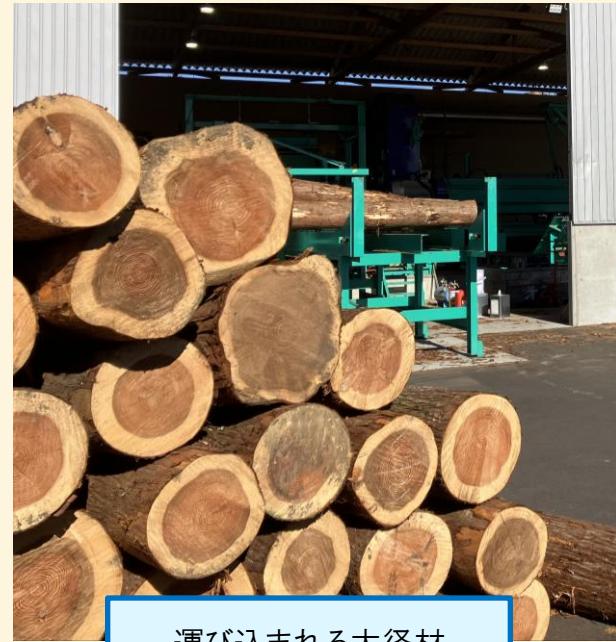
根張りカット機能で遅滞なく

トーセン

トーセン（栃木県矢板市、東泉清寿社長）は本社工場に大径木・短尺材用の製材ラインを導入した。元口40×60cmの杉の2材材を製材し、芯材から再割用のフリッヂ、側材から板材を製材する。シングル台車では1日30本程度しか挽けないが、ツインバンドソーで150～200本は挽けると見ている。用途が乏しく、附加值の低い短尺材的有效活用が目的で、短尺材の製材ラインは本社工場で3ライン目。グループで7ライン目、大径材対応は初めて。

導入したのは、ツインバンドソー（オーライ・インバーション）、エッジヤー（橋本鐵工）、自動段積み装置（鉛工）で、ミズ木工機（同河内郡、渡辺利）で60cm以内までカットする機能を持つ。通常

夫社長）が納入した。ツインバンドソーは元口60cmまで対応するが、根張りが60cm以上あっても、ボタン一つで60cm以内までカットする機能を持つ。通常



大径材を有効活用すための取組はまだはじまったばかり。試行錯誤が続くものと思われます。

ホームセンター向けの材等、新たな需要先を確保したり、付加価値のある製品を製造・出荷したりと試行錯誤を重ねることで、高齢化しつつある森林資源も無駄なくフル活用出来る体制を整えていきたいと考えています。

